

# ふくしの風

大分市社会福祉協議会 No.27(令和3年3月発行)

市社協発！  
校(地)区社協活動情報！  
今回は両面あります♡



## With コロナの地域活動

～いろいろな工夫で！つながりを取り戻せ！！～

令和2年度は新型コロナウイルスの流行により、今まで行ってきた様々な活動が形を変えたり、中止を余儀なくされました。そこで、地域福祉推進委員研修会で依頼をしました【令和2年度の校(地)区社協活動状況アンケート】の回答結果から一部抜粋して、それぞれの校(地)区社協がどのような工夫を行い、活動してきたのかを紹介します。

### 『話し合い』の工夫 ～佐賀関地区社協の「福祉活動意見交換会」～

#### ★ ふだんの活動

年に1回、佐賀関地区内の概ね旧小学校ごとに地区を5か所に分け、それぞれの校区の活動者(自治会長、民生委員児童委員、福祉委員、健康推進員等)を対象に、地区社協の活動状況のお知らせや意見交換を行う「ふれあい懇談会」を行っています。

昨年度までは、こんな感じで5会場それぞれで懇談会を行い、意見交換をおこなっていました。



#### ★ 今年度、工夫して実施したこと

各校区の校区長や地区民児協の役員に声をかけ、代わりに事業として「福祉活動意見交換会」を開催。校区代表自治委員(4名)、民児協役員(4名)、地域福祉推進委員(2名)、市社協(2名)、事務局(5名)計17名にて実施しました。

参加者と議題を絞って実施することで、今までよりも話し合いの内容が焦点化できつつ、各校区の情報収集ができたと思います。懇談会のもち方を工夫してみるきっかけにもなりました。



### 『行事』の工夫①～野津原地区社協の「コロナに負けるな！セット」の配布～



野津原地区社協では、ふれあい活動(小地域福祉ネットワーク活動)を基盤に「地域住民の交流」や「助けあい」「支えあい」などの福祉活動の更なる推進のため、「野津原地区地域福祉活動計画」を策定し進めています。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策によりさまざまな事業、行事の中止を余儀なくされている今、地区社協としてできることを模索し「コロナに負けるな！セット」の配布を実施しました。

#### ★ ふだんの活動

「ふれあい活動」として、ふれあい対象者〔地区内の75歳以上のひとり暮らし高齢者、80歳以上の高齢者世帯及び、年齢・世帯状況を問わず、支援(ふれあい)が必要な方〕を対象に、見守り・訪問活動を地区の民生委員児童委員中心に実施しています。

#### ★ 今年度、工夫して実施したこと

今回、自治会長を通じて、地区内のふれあい対象者304名の方にコロナに負けるな！セット【①お家でできる体操のポスター②フレイル予防の手引き(食事編)③あまびえ塗り絵④色鉛筆⑤布マスク】の配布をする中、見守り・訪問活動を実施しました。

ふれあい活動は民生委員児童委員さん中心に担っていましたが、今回は自治会長がふれあい対象者のお宅を、一軒一軒を訪問し配ることにより、自治会の中の実態、様子が把握でき、ふれあい活動の推進となりました。



感謝の声、嬉しいです♡

#### ふれあい対象者さんから お礼のこぼ(一部抜粋)

5/22日に配布された地区社会福祉協議会の取組み。対象者に連絡周知や色鉛筆まで入った「塗り絵」体験の楽しい資料にその心配りに感謝しぜひ完成したい興奮にも誘われました。それが機会となって、挑戦するやる気呼び戻されたような、欢喜健康の道に企画の皆様へ感謝感激して継続しています。ありがとうございました。

裏につづく…

## 『行事』の工夫② ～西の台校区社協の「愛のしもつき弁当」～

### ★ ぶだんの活動

毎年11月（霜月）に、西の台校区ボランティアの会の皆さんがお弁当を手作りし、民生委員さんが校区内の75歳以上1人暮らしの高齢者約200名にお届けしています。

西の台校区ボランティアの会のみなさんには、手作りお弁当をはじめ、西の台校区社協の様々な事業にご協力をいただいています。（写真は令和元年のものです）



### ★ 今年度、工夫して実施したこと

公民館の調理室が工事のため使えないことと、集まって手作りのお弁当を作るのは密になってしまうことから、今年度はお弁当を仕出し屋さんから購入しました。そのかわり、ボランティア手作りのアクリルたわしと手紙をお弁当に添えて、担当の民生委員児童委員から一軒一軒、お渡しをしました。



新型コロナウイルス感染予防の観点から、大人数で集まる場面は減ってしまいましたが、民生委員児童委員による戸別訪問という形でふれあい対象者とのつながりを保つことができました。西の台校区ボランティアとしての活動も、形を変えて継続することができました。

### 他の校区でも、こんな工夫がありました

【校（地）区社協関係者による協議・話し合い】

・参加者を一部制限、広い場所で換気をして行う、時間短縮（議題の整理）

【高齢者を励ます会等の地域住民を対象とした行事】

・集いの場の中止、または訪問型（記念品等の配布）への一部変更

・屋外行事については検温、消毒等を徹底して実施

・訪問型（お弁当配布、記念品配布など）、非接触型（寒中見舞いの送付など）の事業は予定通り実施



## その他、校（地）区社協のみなさんからの声③

### ★ 事業中止が続いた

- ・コロナウイルスの感染状況を確認しながら実施の方向で検討したが、直前になって止むをえず中止することが多かった。
- ・サロンを始め、定期開催の事業が中止となり、世話人の士気が下がる。
- ・コロナの中、活動する事により感染した時の責任問題もあり自粛の指示しかなかった。
- ・活動が制限されたのはやむを得ない事と思いましたが、今後 with コロナの状態でも工夫して活動を続けていけばよいのかとても難しいと感じています。

### ★ 工夫したこと

- ・コロナウイルスの感染予防のために多くの活動が制約された。三密を避け、できる事を行なった。
- ・新型コロナウイルスの為、訪問時、感染について注意して活動した。
- ・新型コロナウイルスの関係で、活動を行う上で悩むことが多く、活動をどこまで行うかの会議を実施。ただ結論を出すのは難しい。

### ★ 新たな気づきがありました

- ・コロナもそうだが、世界的な事象で日常が制限され、活動のやり方を色々と考えさせられる好機となった。無くて良いものもあるらしい。必要なものはあまり思い当たらず、ただ資金（救済用）の拡大が必要かと。無駄の必要性、無用の用を知れた。
- ・校区での行事がすべて中止となり、「人が恋しい」気持ちでいっぱいになりました。改めて助け合って生きる大切さを考える事が出来て、これからの活動に頑張っていきたいと思えます。



全ての地域福祉活動に共通する目的は、「人と人（社会）のつながりをもつ機会を提供する」ことではないでしょうか。こうした目的を、フィジカルディスタンス（物理的距離）を保ち、状況に応じて形を変えながら実施する工夫として、以下のようなことが考えられます。

- ・参加者間の距離の確保（1メートル～2メートル程度）
  - ・参加者のマスク着用徹底、手指消毒
  - ・机の配置の工夫（口の字型などの対面式で距離がとれない場合、教室形式にするなど）
  - ・実施時間の短縮 議題の焦点化 事前アンケート等の活用
  - ・オンライン（LINE、ZOOM等）による意見交換や研修会の実施
  - ・集いの場等の通所型の行事については、訪問型での実施や、その他の事業形態が可能か検討を行う
  - ・参加者の把握（名前、住所など）、体調確認（発熱、風邪症状等の有無）
- ※37.5度以上の発熱、体調不良等あれば参加をお控えいただく

・・・等

上記の工夫も参考に、出来るところからやってみるのも大事かも！

大分市社協では、それぞれの地域の実際の取り組みを通じて、良かったことや苦労していることなどの情報交換を引き続き行っていきます。皆様の活動の参考にいただければ幸いです。

【お問い合わせ先】大分市社協 地域福祉課 地域福祉係  
☎ 547-7418 ☒ tfukusi@oita-syakyo.jp